

紀南病院通信 vol. 91

2018/9



内視鏡室にて野村先生と

東京大学医学部附属病院初期研修医 2 年目の藤井恵美です。1 か月間、内科でお世話になりました。

指導医の野村先生の暖かいご指導の下、病棟や救急外来での患者さんの診察に加え、数多くの手技に参加させていただくことが出来ました。自分で判断・決定・施行し、それに対して責任を持って患者さんの状態をフォローし、またご家族に説明していく経験を数多

く積ませていただきました。一人の患者さんに関わる医者数の多い大学病院では、なかなか機会のない貴重な経験で、今後内科医として働いていく上での、自信につながりました。

エコーや、上部消化管内視鏡を学びたいと希望していましたが、エコー室での心エコー実習から始まり、病棟や救急外来で患者さんに快くエコーを当てさせていただいたり、腹痛のある患者さんの腹部エコーでは、急性胆嚢炎やイレウスの所見も見つけることが出来ました。

上部消化管内視鏡は、野村先生から、シミュレーターを使って丁寧にご指導いただき、その後、健診の患者さんのカメラ引き抜き、胃内観察、と段階を踏んで経験しました。最終的に、担当患者さんの胃カメラを一人で行い、幸せな思い出となりました。

透視室では、下部消化管内視鏡下での大腸ポリープ切除後の止血クリップ操作や、ERCP での胆管内ワイヤー操作、イレウス管留置の際に操作させて頂くなど、多様な処置に関して丁寧にご説明頂き、少しでも研修医が参加できるようにと、多くの機会を与えて下さいました。



透視室にて



片川ミニタウンミーティングにて
鈴木先生・清水さんと

地域医療実習ということで、紀南病院の外も見てみたいと思い、山奥や離島の診療所にも行かせて頂きました。

紀和診療所・小森診療所では、濱口先生に、神島診療所では小泉先生にご指導頂きました。紀南病院まで来るのが難しい地域の方々の健康を、地元の医師・看護師・ソーシャルワーカーさん、同じ地域の住民の方々など、多くの人が関わって、支えている仕組みに、東京とは違う暖かみを感じう

く困難さも感じ、地域医療について考える、よい機会となりました。

週末には、鈴木先生にご紹介いただいて、古座・串本でダイビングのライセンスを取りました。串本にも一泊して、温泉に入ってきました。綺麗な海で潜れて、楽しかったです。連休には、東京から遊びに来た家族と、伊勢・志摩・鳥羽や京都観光に行きました。

平日も、新宮のイオンやスーパーセンター、コメダ珈琲、熊野のケーキ屋さんなど、あちこち車で散策していました。

1 か月と短い間でしたが、病棟や内視鏡室、透視室、救急外来などで、沢山の方々に優しく話しかけていただき、皆様に助けていただき、楽しく有意義な日々を送ることが出来ました。

先生方には、本当にお忙しい中、快くご指導いただき、また、飲み会が足りないと愚痴をこぼせば、付き合ってくださったりと、感謝の気持ちでいっぱいです。

また皆様にお目にかかる機会があれば嬉しいです。

本当に、どうもありがとうございました。



ダイビングショップのハスキーさん